

歴史学研究センター

2007年度第5回公開講座

2007年6月30日(土)



横浜市立大学名誉教授

加藤 晴康氏

Haruyasu Kato



東海大学文学部教授

白田 雅之氏

Masayuki Usuda



当センター研究員

田中 正敬氏

Masataka Tanaka

フランス革命とアジア

専修大学神田校舎2号館 302教室

2007年6月30(土)、専修大学神田校舎において、第5回公開講座が開催されました。今回の公開講座は、歴史学研究センターの主要テーマである「フランス革命が日本とアジアの近代化にいかなる影響を及ぼしたのか」という問題について、アジアの側からの視点で、加藤晴康氏(横浜市立大学名誉教授)・白田雅之氏(東海大学文学部教授)・田中正敬氏(当センター研究員)のお三方に講演していただきました。

当センターではこれまで第1・2回公開講座で、日本やイスラム世界の事例、また第2・4回国際シンポジウムでは、日本・中国・韓国・インド・ヴェトナムの事例について講演・報告していただきました。そこで今回はこれまでの成果を踏まえつつ、研究のさらなる深化を目指し、加藤氏には「日本の中の

フランス革命—『草莽崛起』から『民権』へ」と題して日本の事例を、白田氏には「フランス革命とベンガルの近代思想」と題して、インド・ベンガル地方の事例を、田中氏には「植民地期朝鮮における『自由』と『平等』—関東大震災に対する反応から」と題して朝鮮の事例をご講演いただきました(講演の詳しい内容については3頁をご覧ください)。

今回の講演により、日本・アジアに与えたフランス革命の影響の深さを再認識する一方で、これまで取り上げられなかった他のアジア諸地域への関心も高まり、さらなる研究の必要性を感じさせる有意義な公開講座となりました。

(センター任期制助手 小林 風)

